

対象年度		令和 7年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		児童生徒自立支援事業						予算事業名		児童生徒自立支援事業費			
予 算 科 目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	結城市生徒指導相談員設置規則 教育委員会規則第 1 号				
			10	01	03	11	経常経費						
総合計画体系	未来を担う子どもと 生き生きとした市民を育む地域を目指そう 地域への愛着と誇り、「生きる力」を育む教育環境づくり 安心して学べる学校づくりの推進						事業の区分	主要事業					
							担当課係等	学校教育課					
								指導課					
事業期間		継続 (昭和63年度～ 年度)											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
生徒指導相談員（週3日勤務）2名を配置し、集団生活へ適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センター フレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。							教育支援センターや適応指導教室は、県内全ての市町村に設置されており、利用者は年々増加している。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
問題を抱える児童生徒の減少・相談員の質の向上							問題を抱えている児童生徒						
							【事業をとりまく環境の変化】 学校不適応児童生徒の増加に伴い、本人だけでなくその保護者にも支援を実施する場所と機会を提供する。保護者からのニーズは高まっている。						
【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】				【令和 9年度 事業内容】					
生徒指導相談員（週3日勤務）3名を配置し、集団生活へ適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。中学校に校内教育支援センターを設置する。				生徒指導相談員（週3日勤務）3名を配置し、集団生活へ適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。中学校に校内教育支援センターを設置する。				生徒指導相談員（週3日勤務）3名を配置し、集団生活へ適応促進させる。学校とは異なる場所である教育支援センターフレンド「ゆうの木」にて適応指導を行う。中学校に校内教育支援センターを設置する。					
■事業費													
			R05年度		R06年度								
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0						
	県		支	出	金	0	0						
	地		方		債	0	0						
	そ		の		他	0	0						
	一		般	財	源	2,352	2,895						
歳 入 計 (千 円)			2,352		2,895								
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)		金額 (千円)		金額 (千円)								
	07	報償費	2,076		2,440								
	10	需用費	109		174								
	11	役務費	167		193								
	13	使用料及び賃借料	0		88								
歳 出 計 (千 円) (A)			2,352		2,895								
伸 び 率 (%)					23.08								
備 考	総合計画 99 ページ 予算書 174 ページ												

令和 5年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R05年度	R06年度	R07年度
活動 指標	教育支援センターフレンド「ゆうの木」における相談実施件数	件	目標	3,000.00	3,000.00	3,000.00
			実績	1,697.00	0.00	0.00
	生徒指導相談員助手	人	目標	5.00	5.00	5.00
			実績	5.00	0.00	0.00
成果 指標		件	目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
		人	目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	不登校児童生徒数は増加傾向にあるため、必要性は非常に高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	行政が実施する事業である。
	手段の妥当性	A 妥当である	改善が見られる児童生徒がいる。「ゆうの木」を居場所と感じている児童生徒がいる。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	不登校児童生徒数が増加している現在の状況を考えると、今後も希望する児童生徒は増加すると思われる。
公平性	受益者の偏り	C 偏りがある	設置場所が市内北部であり、南部の児童生徒が利用しにくい。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	成果を図る指標設定が困難である。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	「ゆうの木」としては順調に進んでいるが、校内教育支援センターも活用することで、様々なニーズに応えられると思われる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
不登校児童生徒の解消は簡単ではない。大切なのは、居場所を確保し、様々なニーズに対応できるようにすることである。南部に「ゆうの木」を設置すること、校内教育支援センターを設置すること、どちらも指導や支援をする人、場所の確保が課題である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
南部にも「ゆうの木」を設置する。校内の教育支援センターを設置する。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 不登校児童生徒は、ますます増加するものと思われる。南部にも「ゆうの木」を設置すること、各校に校内教育支援センターを設置することについて、拡充を図っていきたい。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））	
☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり	